

## 電波資源拡大のための研究開発 平成20年度継続案件評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
複数基地局連携送信によるユーザスループット高速化技術の研究開発	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザスループットを従来方式の2倍とする目標に対する基本データが得られつつある。</li> <li>・19年度からの実施案件であり、目標の達成度は妥当なものである。</li> <li>・成果目標が明確であり、実施計画、体制共に妥当なものである。</li> <li>・初年度でありながら、特許出願8件があり、また学会報告も行っている。取り組みは評価できる。</li> </ul>	4.0
第4世代移動通信システムにおけるモバイルQoS制御技術の研究開発	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度としての研究は、計画どおり進められた。</li> <li>・次年度研究開発は、この成果をもととし、全体計画に沿って計画されており、妥当である。</li> <li>・仕様書作成、装置試作期において、知財が生まれる可能性は大きく、知財確保への努力が求められる。</li> </ul>	3.3
安全運転を支援する車車間通信の実現に向けた周波数高度利用技術の研究開発	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19年度からの実施案件であるにもかかわらず、かなり検討が進んでいる模様であり、高く評価できる。</li> <li>・今年度実績をもとに、全体計画に従い計画されており、実施計画および体制等は妥当である。</li> <li>・初年度としては7件の特許を準備中であり、また3件の学会発表を予定するなど、順当である。</li> </ul>	3.8
800MHz帯映像素材伝送中継用移動通信システムの高度化のための研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ目標が達成されているようであり、妥当なものと判断できる。</li> <li>・これまで得られた成果をもとに、全体計画にそって計画されており、実施計画および体制等は妥当であると判断される。</li> <li>・論文発表実績や特許準備などに、ある程度成果を上げている。</li> </ul>	3.8
高マイクロ波帯用アンテナ技術の高度化技術の研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度計画に沿った研究開発が実施されており、システム実現の検討に必要なデータが得られ特に問題はない。</li> <li>・最終的な成果を得るための研究実施の計画がなされており、実施計画および体制とも妥当である。</li> <li>・目標を上回る、特許出願ないし出願準備がなされ、また学会発表等も積極的に行われており、評価できる。</li> </ul>	3.8
基幹用ミリ波帯無線伝送システムの実現のための基盤技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの研究項目で目標を達成しており、W帯分布型増幅器、短パルス発生器では世界最高の性能を達成している。</li> <li>・実施計画については、これまでの成果を基に、最終目標の達成に向けた計画となっており妥当である。</li> <li>・本年度は国内出願9件、外国出願3件あり、また外部発表が20件あり、積極的な取り組みが行われたと判断できる。</li> </ul>	4.1
無線アクセス用ミリ波帯無線伝送システムの実現のための基盤技術の研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に沿って研究開発が実施され、所望の研究成果が得られており、問題ない。</li> <li>・実施計画は、これまで得られた成果を踏まえ、全体計画にそったものであり妥当である。</li> <li>・16件の特許出願が行われ、論文、国際会議発表等も積極的に実施されており、十分な取り組みと判断される。</li> </ul>	4.0
ミリ波帯無線装置の高効率化技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの課題で年度目標は達成されており、中には世界初のデータも含まれ優れた成果をあげている。</li> <li>・実施計画は、これまで得られた成果を踏まえ、全体計画にそったものであり妥当である。</li> <li>・36件の特許出願（準備中を含む）ならびに10件の学会発表があり、積極的な取り組みが行われている。</li> </ul>	4.3
ミリ波帯無線装置の低コストの小型ワンチップモジュール化技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほとんどの研究課題において年度の目標の達成し、あるいは達成可能となっており、順調に研究開発が実施されている。</li> <li>・全体計画のもと、これまで得られた成果を基に、最終目標を達成するための実施計画であり妥当である。</li> <li>・13件の特許出願（出願準備中も含む）があり、積極的な取り組みが行なわれた。</li> </ul>	3.6
ミリ波ブロードバンド通信システム用アンテナ技術の研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に進捗しており、計画にそった妥当な成果をあげている。</li> <li>・8件の特許出願（出願予定を含む）が行なわれ、12件の外部発表もなされており、評価できる。</li> <li>・最終目標達成に向かって計画が遂行されることを期待。</li> </ul>	3.5
ミリ波帯高精細映像伝送技術の研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリジナリティの高い研究により、画期的な成果を得ている。</li> <li>・実施計画は、現在の進捗状況に基づき全体計画に沿った計画であり、特に問題はない。</li> <li>・2件の特許出願が行なわれ、国際標準化への貢献の準備を進めており評価できる。</li> </ul>	4.1

電波資源拡大のための研究開発 平成20年度継続案件評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
ミリ波帯ブロードバンド通信用超高速ベースバンド・高周波混載集積回路技術の研究開発	H19～23	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発を開始した初年度でもあり、当初の目標は達成されている。</li> <li>初年度えられた実績をベースに、全体計画のもと、研究開発進捗計画であり、計画および体制とも適切である。</li> <li>初年度であるが、6件の特許出願ならびに54件の学会発表を行うなど活発である。</li> </ul>	4.1
マイクロ波帯、ミリ波帯の利用拡大のための機器雑音抑制技術の研究開発	H19～22	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年度であり、評価手法や基本的問題を把握するフェーズである。このことに対する進捗は順調に推移している。</li> <li>全体計画に沿った進捗と今後の研究計画であり、計画および体制に問題はない。</li> <li>特許申請5件、学会発表1件を行っているが、本テーマではもう少し踏み込んだ標準化（計測方法の標準化など）が要求されているので、今後注力して欲しい。</li> </ul>	3.6
広域電波強度分布測定技術の研究開発	H19～22	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究開発の開始初年度の達成度としては妥当なものである。</li> <li>本年度の実績は全体計画に沿ったものであり、今後の計画も妥当である。</li> <li>初年度であり、3件の学会発表にとどまっているが、今後積極的な取り組みが行われることを期待する。</li> </ul>	3.4
固体素子を用いた船舶用9GHz帯レーダーの研究開発	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年度計画に沿った研究開発が実施され、所望の成果がほぼ得られている。</li> <li>今年度の成果も活用し、全体目標に従った計画であり、方向性もよく、適切である。</li> <li>今後の標準化に向けた取組や知的財産に関する取組に期待。</li> </ul>	3.4
偏波多重衛星通信技術の研究開発	H18～20	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の成果をもとに、今年度の研究成果を着実に進捗させ、今後解決すべき課題等も明らかにしており、特に問題ない。</li> <li>最終年度の実施計画としては、ほぼ妥当である。</li> <li>特許申請が2件なされているのみであり、成果発表、知財化に更なる努力が必要。</li> </ul>	3.6
衛星通信における適応偏波多重(APDM)伝送技術の研究開発	H19～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の研究開発は順調に進展し、開発課題の設定目標は達成されており有効であった。</li> <li>本年度実績をもとに、全体計画に沿って計画されており、体制及び予算とも適切である。</li> <li>初年度の目標をほぼ達成しているが、今後、更なる積極的な取り組みに期待する。</li> </ul>	3.7
衛星通信用中継器における周波数高密度利用技術の研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>細部にわたって注意深く研究が進められており、予定通りの成果が得られている。</li> <li>最終年度の実証試験に向けて、実施計画、体制とも妥当なものである。</li> <li>特許出願が2件なされているが、今後、更なる積極的な対応を期待。</li> </ul>	3.7
周波数の有効利用を可能とする適応型衛星通信技術の研究開発	H19～22	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年度計画は予定通り実施されており、予定の成果が得られている。</li> <li>初年度は環境の整備が中心で標準化活動、知的財産に関する取り組みが不十分であったため、次年度以降の積極的に取り組みに期待。</li> </ul>	3.3
高マイクロ波帯基盤技術の高度化のための研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>低消費電力化、高出力パワーアンプ技術については順調に進捗し、所望の成果が得られており評価できる。</li> <li>これまでの実績に基づいてしっかりした研究計画が立案されており適切である。</li> <li>特許の出願件数等を増やすべきであり、周辺特許も含めて戦略的に対応する必要がある。</li> </ul>	4.0
ミリ波帯高速移動体通信システム技術の研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定通りに進捗しており、前年度の研究開発結果に基づき、更なる改善、性能向上に向けた研究成果が得られた。</li> <li>実績をもとに、全体計画に沿った計画であり、体制、予算計画とも問題ない。ただ、現実的な環境（高速ネットワーク部分のあり方）を考慮することが必要。</li> <li>6件の特許申請が行われ、外部報告も順調に行われている。</li> </ul>	3.5